

幌延町の教育が大きく変わっていきます

幌延町だけではなく、全国的に学校教育に新しい波が押し寄せています。「令和の日本型学校教育」とも呼ばれ、以前よりも、個別学習と協働学習が大切になってきています。本リーフレットは、今、そしてこれから、どのような教育が学校で行われ、行われていくのか、町民の皆様と共通理解を図るため、幌延町教育委員会から発行するものです。

幌延町教育目標：持続可能な社会の創り手となる子どもを育てる～自律・尊重・協働～

3 未来は自分で創る

◆小中一貫校の実現

将来の予測困難な時代を前に、子どもたちには、自ら未来を切り拓いていくための資質・能力を培うことが求められています。新しい時代を生きる子どもたちに求められる資質・能力を確実に育むために、小学校6年間、中学校3年間という枠にとらわれず、義務教育9年間のつながりを大切にした「小中一貫教育」を推進することが求められています。また、その取組を進めることで、中学校に進学する際の大きな環境の変化を和らげ、新しい環境への適応につなげることも大切です。

トピックス

教室には多様な子どもが集まっています。子どもの多様化が進んでおり、次のようなデータとして表れる子ども以外にも、授業の理解度に差があったり、学びやすい方法もそれぞれ違ったりと、子どもはみんな違います。

- ・特性のある子ども 3.6人 (10.4%)
 - ・不登校 0.5人 (1.3%)
 - ・不登校傾向 4.1人 (11.8%)
 - ・特異な才能 (IQ130以上) のある子ども 0.8人 (2.3%)
 - ・家にある本が少ない (25冊以下) 子ども 10.4人 (29.8%)
 - ・家にある本の冊数が少なく学力の低い傾向が見られる子供 10.4人 (29.8%)
- ※1クラス 35人の子どもが在籍していると仮定

(参考:「全国学力・学習状況調査」等の結果)

1 学びを変える

教師による一方向の一斉授業スタイルは、異なる一人一人に合う学びを届けることには限界があります。一人一台の端末等をフル活用して、自分のペースで自分から学ぶ。そして多くの人と対話して、助け合って共に学び合う。教室の空間デザインも工夫し、好奇心と夢中であふれる、もっと自由にクリエイティブな教室へ。今、学校ではこれまでの一斉授業や「黒板とチョークだけの授業」から脱却し、個別最適な学びと協働的な学びへとシフトチェンジしています。

今までは…
「みんな一緒に 同じことを 同じ方法で」

授業についていけない…
じっとしているのが苦手だな…
この方法なら解けそうなのに…
簡単すぎて退屈で苦痛だな…
文字が読みづらいな…

これからは…
「自分のペースで自分で学ぶ」「一人一台端末」
「学び合って、助け合って、共に学ぶ」
「小学校での教科担任制」「チーム担任制の導入」
「AIドリルの導入」…

自分で課題を見つけて、こう考えてみたよ。
そんな考えもあるんだ…
端末を使って調べてみよう！
少数の意見も大事にしてまとめよう！

自己肯定感を高める3つの魔法の言葉
① どうしてそう考えたの？
② これからどうする？
③ 何か手伝うことはあるかな？

「自己決定が許される環境で自己決定の経験を繰り返していけば、人の脳はその動きに慣れ、心理的安全性が確保され、自己肯定感が高まる。」
(脳神経学者 青砥瑞人氏)

2 誰一人取り残さない

「誰一人取り残さない学校」とは、誰もがありのままの自分を認められ、他者や社会に対して基本的信頼をもち、困ったときに必ず誰かが助けてくれる、そして違いに意味があり、自分も社会の中で何かができる、また希望をもっていいと思える関係性のある学校です。さらに、学力についても、町内のすべての子どもたちが幌延町以外、道外、国外に行っても平準的に通用する学力を身に付けさせる「学び」を保障することが重要です。

◆「遠隔教育特例校制度」(文科省指定)

少人数の生徒が在籍する問寒別中学校の対話的・協働的な学びを実現するため、オンラインシステムを活用して幌延中学校とつなぎ、協働的な学びの充実を実現します。

◆不登校への支援

不登校の子どもは年々増加し、10人に1人以上の小・中学生が「学校に行けない・行きたくない」という状況です。誰一人取り残さず、学びが届くような不登校支援の新たな仕組みをつくりたい。また、増加している特別な支援が必要な子どもにとって、よりよい教育環境・支援につなげるため、オンライン授業を実施できる環境の整備に努めます。

◆学習指導要領の理解

全国基準である学習指導要領の内容を遵守した学習内容を実施するとともに、中教審の提言である「年間の授業時間数を大きく超えないこと」「指導体制に見合った計画にすること」「運動会の簡素化や入学・卒業式の時間短縮」などを推進し、教職員の長時間労働を是正し、子どもと触れ合う時間や子どものための教材研究等の時間の確保を徹底します。

4 地域と一緒に

幌延町の強みである地域の力を生かして、地域と一緒に子どもを育てる環境づくりを進めます。

◆コミュニティスクールの充実

学校と保護者や地域がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に学校や子どもを支えていく仕組みであるコミュニティスクールの充実を図ります。

◆中学校部活動の地域移行

2023～2025年度を「改革推進期間」と位置付け、早期に地域移行の実現を目指すという国の方針のもと、幌延町でも土日の部活動から段階的に地域移行を進め、地域と一緒に子どもの活動の場をつくっていきます。

◆学校・保護者間の連絡手段のデジタル化

学校からの情報発信やアンケートの実施、家庭からの欠席連絡などを迅速・確実にを行うため、アプリを導入し、双方の利便性を高めています。

◆教職員の働き方改革の推進

子どもと触れ合う時間や授業に意欲をもって取り組むことができるよう地域の理解のもと、教職員の働き方を見直していきます。

◆各種教育の推進

家庭や地域社会、関係機関と連携した「人権教育」(幌中)やALT等を活用した国際理解教育、豊富小と連携した授業力を向上する実践、ICTを研究する幌延町情報教育センターと連携した授業改善など、様々な教育に取り組んでいます。

本リーフレットに関する問い合わせは、**幌延町教育委員会** まで

〒098-3207 天塩郡幌延町宮園町1番地1

Tel: 01632-5-1117 / Fax: 01632-5-1749

E-mail(共有1): sogaku@town.horonobe.lg.jp

令和5年(2023年)9月1日 発行